

・脳出血

脳出血とは脳内の血管が何らかの原因で破れ、脳のなかに出血した状態をいいます。出血した場所により症状は異なりますが、激しい頭痛や嘔吐・めまいなどに始まり、意識障害・運動麻痺・感覚障害などの症状が現れ、ひどい場合には死にいたります。

透析患者さんの脳出血の発症率は一般人と比較し 5～10 倍高く、また血腫（出血によりできた血の塊）が大きくなりやすく、きわめて死亡率が高いのが特徴です。脳出血の原因としては、体重の増減に伴うコントロール不良の高血圧や、透析中のペパリンなど抗凝固薬（血が固まらないようにする薬）の影響が考えられています。

クモ膜下出血の最大の危険因子は脳動脈瘤（血管にできるコブ）や脳動静脈奇形の存在ですが、飲酒・喫煙・高血圧の存在も大きな要因となります。また、透析患者さんにおいてはクモ膜下出血の 4～7.4%が多発性のう胞腎の患者さんであり、多発性のう胞腎も危険因子のひとつといえます。

脳出血の予防策としては血圧コントロールが一番大切なことですが、脳動脈瘤の存在や動脈硬化などの状態を MRA 検査などで調べ、治療出来るものは早めに治療を行うなど早期発見・早期治療が必要となります。



【MRA 検査】

MRI 装置（磁石を使って人体の断層像を撮影）を使って血管だけを撮影して、血管の走行や瘤の有無を調べる検査。

・脳梗塞

脳梗塞とは、脳の血管が詰まったり何らかの原因で脳の血のめぐりが正常の5分の1から10分の1ぐらいに低下し、脳組織が壊死（えし：細胞が死亡すること）してしまった状態をいいます。脳梗塞の典型的な症状には、意識障害、片麻痺（かたまひ：片方の手や足が動かなくなる）、言語障害などの症状が現れます。これらの症状は血管の詰りかたにより、数日かけてゆっくり出現する場合と突然発症する場合があります。脳梗塞を起こした場所により死にいたることもありますが、多くの場合は何らかの後遺症を残して、介護が必要となる状態となります。

透析患者さんは平常時から脳血流が低下しているとの報告があります。また、血液透析が脳梗塞を誘発する要因として、徐水に伴う血液濃縮と血圧低下や透析後の坐位・立位時の起立性低血圧による脳血流量の低下が影響を及ぼすと言われていています。よって、脳梗塞を発症する時期としては、透析終了後 6 時間以内が最も多いと報告されています。